

## ポニー（マロン）の安楽死について

個体名：マロン

生年月日：昭和 58 年（1983 年）生まれ 37 歳

来園月日：平成 16（2004 年）3 月 31 日

ポニーの“マロン”は、平成 16 年に来園以来多くの皆さんに愛されてきました。大変穏やかな性格で、特に「ポニー乗馬」では、人と動物が直接ふれあえることで多くの子供達にぬくもりや貴重な体験を与えてくれる人気者でした。一般に寿命が 25～30 年のポニーの中では 37 歳（人で言うと 90 歳以上）ととても長生きでしたが、晩年は体力の低下のため「ポニー乗馬」からは引退して、穏やかな日々を過ごしていました。

令和 2 年 3 月 7 日に一時的な横臥が見られるようになり治療を開始し、3 月 28 日に終日横臥となつてからは、肝障害や脱水などの悪化を緩和する治療を行ってきました。補助をすれば採餌と飲水は可能でしたが採餌量は日に日に減少し、糞の量や状態も悪化してきました。同じ体勢のままでは苦痛を伴うことが推測されたため、体勢を入れ替え、体をふくなどのケアも並行して行ってきましたが、床ずれが悪化し、発熱も見られるようになってきました。

“マロン”は高齢であることから、体力の消耗や関節の硬化のため起立や回復の見込みはなく、今後は感染やそれによる痛みや苦しみが増して行くことが明らかであり、園内で何度も協議を重ね、このような状態から解放させるために、4 月 21 日に薬剤による安楽死処置を行いました。

### 盛岡市動物公園 ZOOMO の安楽死の判断基準

- ①治療を行っても回復が見込めない
- ②生活の質が低下したままである
- ③症状の進行により苦痛、痛みを伴う

これら 3 つの判断基準に従って園内で協議するとともに、第 3 者の獣医師にも参考としての意見を求め判断しました。

## 病状と治療の経過

2020年

- 3月7日 関節炎の治療を長く続けてきており、日中横臥のため治療、2日後には回復し起立する。
- 3月17日 再度、日中横臥が見られる。自力での起立が困難となり、採餌量も低下する。  
⇒血液検査により肝障害所見、発熱のため、点滴・消炎鎮痛剤等投与開始
- 3月28日 終日横臥で起立不能となり、糞の量と便状共に悪化傾向となったため、今後の治療方針について獣医師や幹部職員で検討する。 ⇒肝障害や脱水などの悪化を緩和する治療開始
- 4月6日 褥瘡の形成が見られ始める。 ⇒褥瘡治療開始
- 4月8日 終日横臥のため左大腿部に大きな褥瘡が見られる。
- 4月10日 不定期な発熱が続き、褥瘡悪化傾向となったため、安楽死を含めた今後の治療方針について検討する。
- 4月14日 体の各部位に褥瘡が広がり、一部排膿も見られるため、治療が困難となってくる。
- 4月16日 さらに褥瘡の悪化が進み、1日1回以上行ってきた体勢の入れ替えが不可能となる。
- 4月20日 安楽死についての最終判断を協議する。
- 4月21日 麻酔下での安楽死処置

## 解剖検査結果

解剖した結果から、3月17日の起立困難や発熱の原因は、気管支炎と推定されました。さらに高齢による肝機能低下などの体調不良により横臥の時間が増えたことで、以前から患っていた関節炎が悪化したため起立できなくなり、全身循環機能の低下などによる衰弱が進み、4月21日、心不全により死亡しました。

盛岡市動物公園 ZOOMO

園長 辻本恒徳